

福祉・医療題材

川崎医福大・卒業制作

川崎医療福祉大で福祉デザインを学ぶ4年生23人の卒業制作展が、27日から倉敷市の市立美術館で始まる。テーマは「人に寄り添うデザイン」。福祉や医療などを題材に、人が暮らしやすくなるアイデアのつまつた作品が集まった。3月4日まで。

大学で学んだ集大成として学生1人につき一つずつの作品を展示する。聴覚障害のある子どもが遊びながら日本語を学べる積み木や、病院内の学級で点滴を

つけながら脱ぎ着しやすい制服など、どれも学生自らが病院や学校を訪れて考えた力作が並ぶ。

卒業制作展は今年で15回目で、昨年は約600人が来館した。実行委員長の岩田えみかさん（22）は「私たちが考えたデザインは人の役に立つてこそそのもの。たくさんの人を見ていただき、活動を知つてほしい」と話している。



聴覚障害のある子ども向けの積み木＝実行委員会提供

無料。問い合わせは医療福祉デザイン学科（086・462・1111）へ。

（小川奈々）